日本性科学会ニュース

第29巻第4号　　平成22年（2010年）12月

発行人：大川　玲子　印刷所：㈱絢文社

2011年研修会・学会・研究会の開催予告

1. 第5回日本性科学会近畿地区研修会のお知らせ

日　時：2011年2月20日（日）13時～16時30分
場　所：大阪市立大学医学部附属病院　5階講堂
テーマ：「セクシュアルマイノリティー」

講　師	京都大学	菅沼信彦
	聖隷浜松病院	今井　伸
	関西医科大学	織田裕行
司　会	あべメンタルクリニック	阿部輝夫
	埼玉医科大学	塚田　攻

担当理事：大阪市立大学大学院医学研究科女性病態医学　石河　修
単位・認定：性科学会認定単位5単位　日本産科婦人科学会単位申請中
事務局：大阪市立大学大学院医学研究科総合診療センター内　担当 森村　FAX　06-6645-3796

2. 第40回性治療研修会

日　時：2011年5月22日（日）
場　所：東京慈恵会医科大学西新橋校（東京）　※昼休みに、2011年度日本性科学会総会を開催致します。

3. 第31回日本性科学学会／第13回性科学セミナー

第1回予告

日　時：2011年10月1日（土）第13回性科学セミナー／2011年10月2日（日）第31回日本性科学学会
場　所：東京慈恵会医科大学西新橋校　大学1号館3階・5階講堂
〒105-8461　東京都港区西新橋3-25-8　TEL：03-3433-1111（代）
JR 新橋駅烏丸口より徒歩約15分
都営地下鉄三田線　御成門駅より徒歩約5分
会　長：茅島　江子　東京慈恵会医科大学医学部看護学科　教授
テーマ：性の健康を未来につなぐ
特別講演Ⅰ「環境因子と子どもの健康」　千葉大学大学院　教授　森　千里
特別講演Ⅱ「人権とセクシュアリティ
－日本とラテン社会のピアカウンセリング活動を通して－」
自治医科大学　名誉教授　高村寿子
会長講演　「性の健康と看護」
シンポジウムⅠ「看護における性の健康支援」
シンポジウムⅡ「性暴力・性犯罪とその対応」
一般演題
懇親会（日本性科学連合第13回性科学セミナーと合同）：2011年10月1日（土）
新橋愛宕山東急イン　〒105-0002 東京都港区愛宕1-6-6　TEL：03-3431-0109 FAX：03-3431-0434
第31回日本性科学学会事務局：〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1
東京慈恵会医科大学医学部看護学科　母性看護学領域
TEL：03-3480-1151（内線2751）FAX：03-3480-4739
E-Mail: kayashima@jikei.ac.jp

4. 症例研究会

日　時：1月28日（金）　3月18日（金）　5月19日（木）　毎回午後6時30分～8時30分
場　所：日本性科学会カウンセリング室
担当者：1月　金子和子

Vol. 29
No. 4

日本性科学会
〒107-0062　東京都港区南青山1－1－1　新青山ビル西館3F
長谷クリニック内
TEL 03(3475)1780　FAX 03(3475)1789

第30回日本性科学学会報告

第30回日本性科学学会会長　（川崎医科大学泌尿器科）
永　井　　敦

第30回日本性科学学会が、2010年10月17日に倉敷市芸文館にて開催されました。16日には日本性科学連合第12回日本性科学セミナーが併催され、そして合同懇親会を倉敷美観地区にある大原美術館にて行いました。学会のテーマは「男と女～性を科学する～」とさせていただきました。倉敷というやや不便な地での開催にもかかわらず、おかげ様で122名の有料参加者にお集まりいただきました。また、大原美術館での懇親会にも約80名と多数の先生方に参加していただきました。乾杯の後は皆で館内ツアーも楽しみ、また、ルノアールやモネの本物の絵画を眺めながらのワインと食事と会話を楽しんでいただきました。懇親会で大いに盛り上がった理由を考えてみましたが、やはり本物の素晴らしい芸術に触れるということが気分を高揚させ、そしてさらにアルコールとの相乗効果で良い気分になれたものと考えます。ふと思ったのですが、たとえば男女の関係を見ても、素晴らしいパートナーと一緒にいると気分が高揚し、本当に温かい幸せな気持ちになれます。そのような気分をとっくの昔に忘れていましたが、カップルの良い関係をいつまでも保つには、自分を磨き続けて相手のためによい作品であるよう努力する必要もあるのではないかと考えました。

学会も多数の参加者で活発なディスカッションがなされました。特別講演には「日常診療で出会うHIV感染症／エイズの現状」と題して川崎医科大学血液内科学教授の和田秀穂先生、および「ナンパを科学する～ヒトのふたつの性戦略～」と題して東京大学教養学部附属教養教育高度化機構特任助教の坂口菊恵先生に分かりやすくお話しいただきました。会長講演は「明快　男性医学」と題してお話しさせていただきましたが、明快であったかどうか不安が残ります。シンポジウムのテーマは「がんと性：性科学的観点からのアプローチ」と題して、多くの先生方のご協力で有意義な討論がなされました。一般演題も12題いただき、大変興味深い内容であり、あっという間の一日でした。

本学会の開催にあたりましては、日本性科学会の大川玲子理事長をはじめ、理事幹事の先生方、事務局の皆さまに大変お世話になりました。また川崎医科大学同門の先生方、関連病院各位におかれましても多大なるご支援をいただきました。教室のスタッフともども心よりお礼申し上げます。次回の茅島江子教授（東京慈恵会医科大学医学部看護学科）主催による第31回日本性科学学会のご成功をお祈り申し上げますとともに、第30回日本性科学学会の報告とさせていただきます。

10月16日　合同懇親会（大原美術館）会長挨拶

10月17日　学会風景

第11回アジア・オセアニア性科学会
(The 11th Asia-Oceania Conference for Sexology) 報告

日本学術振興会（東京大学大学院総合文化研究科）
佐々木　掌　子

1. アジア・オセアニア性科学学会(AOCS)の概要

去る2010年8月4日から6日、インドネシアのバリ島にあるDiscovery Kartika Plaza Hotelにて第11回アジア・オセアニア性科学学会（The 11th Asia-Oceania Conference for Sexology; AOCS）が開催された。既に日本性教育協会の現代性教育研究月報9月号にて報告をしているので、詳しくはそちらを御覧頂きたい。

本大会の参加者は16ヶ国200名以上で、日本からは30名近くの参加があった。また、インドネシア性科学会との同時開催であったため、インドネシア人参加者が過半数を占めていた。

アジアの性科学会に出席するたびに思うことだが、「参加者のほとんどが医師であり、さらに男性であり、男性の性機能障害がメインテーマである」という流れは今回も同様であった。「性科学」という学問領域全体のことを考えると、世界性科学会と比して偏っていると感じざるを得ない。たとえば、性暴力やLGBの個人発表が皆無であり、性教育のシンポジウムはオーストラリアやポルトガルの研究者に講演してもらうという構図は、インドネシア、ひいてはアジアにおける性科学関係者の層の薄さ、あるいは関係者間の連携の弱さを物語っているようにも思える。

2. 女性性機能に関するシンポジウム

男性性機能の講演ばかりの中、筆者の興味を引いたのは、シンガポールの女性産婦人科医Dr Srilatha Balasubramanian氏の「女性のオーガズムにおけるGスポット」であった。シンガポールでは、腟内オーガズムを感じたことのない女性たちが自分を病気だと考え手術を受けるケースが後を絶たないという。とはいえ、Gスポットの存在自体が、位置も明確でなく確立した知見もなく、事実なのか誤謬なのか専門家内でも議論が分かれている話だ。そのような中、2008年にイタリアの研究チームが腟内オーガズムを得たことのある女性と得たことのない女性とでGスポットとされる位置の組織に厚みの差が認められたという論文を発表し、ついに位置が特定されたかにみえた。しかしながら今年、イギリスのロンドン大学の研究者たちが双生児法による行動遺伝学分析からGスポットは存在しないと発表したのである。Gスポットには遺伝の寄与がなく環境要因で説明され、セクシュアリティに対する態度やパートナーとの関係性とGスポットの有無が関連していることから、Gスポットに生理学的な基盤はないという論文であった。手術をしようかと悩んでいる女性たちにこのような情報を届けるにはどうすればよいのだろうか。

学会最終日には大川玲子氏が「女性の性機能障害と不妊」と題し、約20年にわたる氏の臨床データを分析した結果を紹介した。挙児希望か否かという要因は、女性の性機能障害の治療に大きな影響を及ぼすものの、昨今では、生殖補助医療を用いることで、セックスをすることなく子どもを持ちたいと考えるカップルが増加しているとのこと。改めて、“夫婦になる”ということはどういうことなのかを考えさせられるシンポジウムであった。

3. わが国からの発表

わが国からの口頭発表は以下である。東京大学の正岡美麻氏らによる「トランスセクシュアルのホルモン療法中における唾液のホルモンレベルの変化」、産業医科大学の濱砂良一氏らによる「異性愛男性の咽頭からの淋菌、クラミジア・トラコマチスの検出：日本の報告のレビュー」、同大学松本正広氏らによる「Abbott RealTime CT/NGによる淋菌、クラミジア・トラコマチスの検出」、京都大学の菅沼信彦氏らによる「fMRIを用いたヒトの脳における性差の分析」、同大学の亀田知美氏らによる「ターナー症候群を持つ成人女性における性的経験とセクシュアリティの分析」、同大学の米盛由以子氏らによる「生殖補助医療に対する性同一性障害当事者の意識分析」、田園調布学園大学の荒木乳根子氏による「老人期の男性に対する介護職員の性行動：女性の在宅介護職の態度と反応についての調査」、神奈川県立汐見台病院の早乙女智子氏による「月経用品の選択と自信に関する1万人の女性の声」、そして筆者は、「性同一性障害当事者における性指向(sexual orientation)の個人内変動性」について発表した。また、ポスター発表は、大分県立看護科学大学の乾つぶら氏らによる「小学生に対する性教育」、同大学の林猪都子氏らによる「産後の家族計画指導に対する夫婦の見方」、長崎大学の宮原春美氏らによる「日本人女性におけるOC（ピル）使用とその論理的根拠」があり、全ポスター発表から選ばれる性科学賞の10名のファイナリストのうちの一人に大阪府立大学の中原由望子氏による「配偶者を亡くした老年期男性における性的関係」がノミネートされた。このように一般演題については日本勢の発表が多く、インドネシアの発表と二分するほどであり、学会の活性化に一役買っていたように思う。

4. 今後の学会予定

次回の性科学会は、“世界”性科学会となり、イギリスのグラスゴーにて2011年6月12日から16日に開催される。そして次は“アジア・オセアニア”となり、2012年8月2日から5日、島根県松江市のコンベンション施設「くにびきメッセ」で開催される。テーマは、「アジア・オセアニアのセクシュアルヘルスの推進」である。ホスト国である日本から多くの参加があることを願いたい。

資格認定委員会より

日本性科学会副理事長（認定制度担当）　阿部　輝夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定、並びに更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2010年度の新規資格認定並びに更新資格認定を行いました。厳正なる審査に結果、以下のように新規セックス・セラピスト1名、更新セックス・カウンセラー 1名、セックス・セラピスト11名が認定されました。

新規認定

セックス・セラピスト　今井　伸

更新認定

セックス・カウンセラー　及川　卓

セックス・セラピスト　真名瀬賢吾・堀口　貞夫・早乙女智子・阿部　輝夫
野末　源一・矢島　通孝・武田　敏・田中　奈美
福本由美子・堀口　雅子・及川　卓

来年度も新規認定、並びに更新認定（2006年資格取得者が該当）の手続きが行なわれます。申請を希望される方は、日本性科学会雑誌2010 vol.28 no.1掲載の資格認定規定並びに資格更新規定を御熟読の上、ご準備をお願い致します。特に、学術集会･研修会などに御出席の受講証･出席証は、必ず御保管下さい。

申請の詳細は、2011年6月発行のニュースに掲載されます。

第12回アジア・オセアニア性科学学会 お誘いと協力ご依頼

昨年の日本性科学学会以来、何度か会員のみなさまにお伝えしておりますが、第12回アジア・オセアニア性科学学会（12th AOCS）は、2012年8月2日（木）から5日（日）の日程で、松江市の「しまね県立産業交流会館（くにびきメッセ）」で開催する運びとなりました。本年1月に組織委員会を立ち上げ、徐々に計画が進んでおります。日本の古代史、近代史ゆかりの地での国際学会を盛り上げ、有意義な性科学交流の場とするため、この年の第32回日本性科学学会も、同時開催することとなりました。国際学会内への組み込み方など、具体的な内容については会員のみなさまのご意見を伺いつつ準備していきたいと思います。また本ニュースやホームページ等を通じて、進捗状況をお知らせいたします。

さて、国際学会開催は多大な費用を要します。もとより製薬会社など関連企業の支援を求めてまいりますが、昨今の経済事情では企業支援にのみ頼ることは不可能と思われます。

そこで、特に学会準備資金として会員のみなさまのご寄付を仰ぐことになりました。近くお願いの書類をお送りしますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

日本性科学会理事長
第12回アジア・オセアニア性科学学会会長
大川　玲子